長崎大学 歯学部 2027 学部案内

NAGASAKI UNIVERSITY

School of Dentistry

基本的教養と幅広い歯科口腔医学専門知識を修得し、
今後の歯科口腔医学、歯科口腔医療を切り拓くとともに
社会に信頼される歯科医師および研究者を養成する。

未来につながる第一歩。
夢への挑戦。

Contents

02 学部長あいさつ
03 歯学部のカリキュラム
05 歯学部の特色
07 歯学部研究室紹介
12 在学生、卒業生からのメッセージ
13 歯学部の入試システム
15 キャンパスライフ・サークル活動
17 施設紹介
18 長崎について

Message

口腔の健康を守り人々が『より良く生きる』ことに貢献しよう

長崎大学は、安政4年（1857年）の医学伝習所を起源とする、歴史ある大学です。その中で歯学部は、1979年に設立された、国内で最も新しい国立大学歯学部の一つです。これまでに2,323名（令和8年3月現在）の卒業生を輩出し、地域医療はもとより、大学での教育・研究、行政など、多岐にわたる分野で活躍しています。

近年、歯科医療が担う業務範囲は、従来のカリエス（むし歯）や歯周病の処置・予防、冠や義歯の装着、インプラント処置、歯列矯正、抜歯、骨折、腫瘍などの口腔外科的処置に加え、その重要性が認識されている高齢者の摂食・嚥下リハビリテーション、病院に入院されている患者さんの口腔機能管理など、非常に広い範囲の業務を担うものです。さらに、少子高齢化という社会情勢を背景に、歯科医療の概念は「歯の形態の回復」から「口腔機能の回復」へと変化しています。

本学歯学部では時代の変化そして社会の要請に応じた歯科医師を養成するため、2019年度より新カリキュラムによる教育を実践しています。

まず入学して1年半の教養教育では、リベラルアーツ教育の充実を図っています。リベラルアーツとは、本来、自由人として生きるために必要な学問を意味しますが、皆様がこれから充実した人生を歩む上で、非常に重要な学問領域です。

歯学専門教育では、歯学領域の基礎系科目および臨床系科目、関連臨床医学などを学び、共用試験（CBT、OSCE）を経て、診療参加型臨床実習へと進みます。また、われわれのカリキュラムでは「リサーチマインドの涵養」を重視しています。このような学びを通じて、私たちは「基本的教養と幅広い歯科口腔医学専門知識を修得し、今後の歯科口腔医学、歯科口腔医療を切り拓くとともに社会に信頼される歯科医師及び研究者を養成する。」ことを理念とし、責任感、社会性、倫理観、豊かな人間性、コミュニケーション能力、協調性、リサーチマインドを備え、先進的な歯科口腔医療に対応できる幅広い知識と基本的技能を身につけた人材を育成したいと考えています。その上で、離島等の地域歯科口腔医療について保健・医療・福祉の側面から総合的に考えることができる歯科医師、また高度の専門的知識と経験、課題探求能力を身につけた研究者・教育者の養成を積極的に推進することを目標としています。

このようなカリキュラムを通じて、私たちは以下の能力を有する歯科医師の養成を目指しています。

- ●歯科口腔医学に関する基礎的知識を身につけている。
- ●歯科口腔医学に関する臨床的知識を身につけている。
- ●歯科口腔医療を行える基本的臨床能力を身につけている。
- ●歯科口腔疾患を全身疾患と関連付けて診断できる臨床能力を身につけている。
- ●歯科口腔医療の現場における問題発見・解決能力を身につけ、リサーチマインドを修得している。
- ●多様化する歯科口腔医療のニーズに即応し、先端的医療を実践するために、生涯にわたり自己主導型学修を継続できる。
- ●患者中心の歯科口腔医療を展開するための豊かな人間性と倫理観を身につけている。
- ●患者に信頼感と安心感を与えることができる高いコミュニケーション能力を身につけている。
- ●多職種との間で協調性を持ってチーム医療を実践できる。
- ●離島へき地をはじめとする地域・国際社会に貢献する強い意思を持って、歯科口腔医療を実践できる。
- ●未来の医療を切り拓くための先端的研究に興味を持ち、歯科口腔医学の発展に貢献できる能力を身につけている。

歯科医師法第一条に「歯科医師は、歯科医療及び保健指導を掌ることによつて、公衆衛生の向上及び増進に寄与し、もつて国民の健康な生活を確保するものとする」と規定されているように、歯科医師は単に歯の治療を行うだけではありません。口腔の健康を通して、人々の生活の質（QOL）向上に貢献し、『より良く生きる』ことを支える大切な仕事です。そのためには、高度な専門知識・技術の修得はもちろんのこと、患者さん一人ひとりに寄り添う心、多職種の医療関係者や地域社会と連携する力も不可欠です。長崎大学は2022年度から開始された第4期中期目標・中期計画において、グローバルヘルスに貢献する大学から、地球の健康、すなわち、プラネタリーヘルスに貢献する大学へと進化すると宣言しているように、私たちの活動領域は日本国内にとどまらず、世界中の人々の健康に貢献する可能性を秘めているのです。ご存じの通り、長崎は江戸時代、鎖国下の日本で唯一海外との貿易が許された地であり、中国やオランダの文化が融合した和華蘭文化が育まれた街です。この魅力的な都市で、歯科医学を学び、充実した大学生活を経験してみませんか。長崎大学歯学部教職員一同、皆さんをお待ちしています。

歯学部長
角　忠輝
SUMI Tadateru

歯学部のカリキュラム

コア・カリキュラム

1年次

教養教育で幅広い教養を身につけ、さらに専門教育の入門として細胞生物学などの基本を学びます。

教養教育

- 早期体験実習
- 歯学展望
- 解剖学（骨学）
- 歯科医師のコンピテンシー

etc

2年次

教養教育の履修のほか、歯学領域の基礎科目を学びます。

教養教育

- 解剖学
- 発生学
- 組織学
- 生理学
- 生化学

etc

- 講義及び実習
- 長崎大学歯学部グローカルインターンシップ・プログラム

3年次

歯学領域の基礎科目（本学独自の科目を含む）の履修のほか、歯科医師として必要な全身の医学を学びます。また、博士（歯学）の学位取得を前提とする歯学研究コースを選択した場合は研究の基礎知識・基本手技も学びます。

- 病理学
- 微生物学
- 薬理学
- 口腔解剖学
- 口腔組織学
- Scientific and Practical English
- コミュニティー教育・実習
- 歯科東洋医学
- 医学統計学

etc

- 講義及び実習

- 口腔生理学
- 口腔生化学
- 歯科理工学実験
- 口腔病理学
- 口腔微生物学
- 歯科薬理学
- 衛生学
- 歯科理工学
- 歯科法医学

関連臨床医学（内科学、外科学、隣接医学等）

- 基礎歯学研究概論
- 基礎歯学研究

歯学研究コース

大学院進学のメリット

長崎大学には大学院医歯薬学総合研究科があり、博士課程は原則４年です。この４年間で得ることができる高い知識と技術は、学部教育の６年間で得た基礎的な知識と技術とは根本的に異なります。大学院の間には無数の論文を読みこみ自分の研究に必要な知識を身につけます（リサーチ能力の涵養）。研究がある程度まとまったら、日本または海外の学会で発表をして、討論します。さらに研究を洗練した後、論文にまとめて世界へ発信します（論理的・科学的に考察し発表・討論する能力の涵養）。これらの能力は、臨床においても患者の疑問に論理的かつ的確に答え、エビデンス（科学的根拠）に基づいた治療を選択するという点で非常に役立ちます。さらにその能力を身に付けることによって、自らが指導的役割を担う歯科医師として一般歯科医院だけで無く大学病院や公的機関など活躍の場が広がります。なお、歯学部の博士（歯学）の学位取得を前提とする歯学研究コースを選択して長崎大学大学院医歯薬学総合研究科（歯学系）に進学した場合には、独自の基準による３年次早期修了の道が開かれています。

大学院進学者は原則としてすでに歯科医師として登録されていますので、指導教員（主任教授）の指導方針によりますが、学業に支障を来さない程度（一般におおよそ週に１回程度）で歯科医師として働きながら学ぶことも可能です。また、長崎大学には社会人大学院の制度があり、この場合は歯科医師として医療施設で働きながら余裕のある時間に大学に通って博士（歯学）の学位を取得することが可能です。

独自カリキュラム

4年次

歯学領域の臨床科目の履修のほか、専門教養科目として基礎的な臨床歯科英会話を学びます。博士（歯学）の学位取得を前提とする歯学研究コースでは臨床研究の基礎知識・基本診療技術も学びます。

予防歯科学	小児歯科学
歯科矯正学	歯内治療学
保存修復学	口腔外科学Ⅰ・Ⅱ
歯周病学	歯科放射線学
冠橋義歯学	有床義歯補綴学
歯科麻酔学	統合科目（一部）
	実践臨床歯科英会話

etc

講義及び実習

臨床歯学研究概論
基礎歯学研究
歯学研究コース

5年次

4年次までに身につけた歯学および医学知識をもとに、統合科目（本学独自の内容、Problem-Based Learningを導入）で各分野の枠組みを越えて疾患に関する総合的な判断力を養成します。博士（歯学）の学位取得を前提とする歯学研究コースでは、さらに少人数指導のもとで基本的な研究を体験します。後期から臨床実習が始まります。

前期	口腔インプラント学	高齢者歯科学
	障害者歯科学	摂食嚥下リハビリテーション学
CBT, OSCE	社会歯科学	統合科目
	統合医療学、離島歯科医学など本学独自の科目を多く取り入れています。	
	※1部4年次で開講	
後期	臨床実習（診察参加型）	歯学研究
		歯学研究コース

6年次

本格的な診療参加型臨床実習（本学の特徴）を開始するとともに、歯科医師国家試験の準備をします。博士（歯学）の学位取得を前提とする歯学研究コースにおいては、指導教員とともに優れた成果を出せば学会発表を行うことも可能です。

前期	基礎歯学輪講	臨床実習(診療参加型)
	臨床歯学セミナー	臨床知識理解度試験
PX	歯学研究	歯学研究コース
後期	歯科医療管理学	高次口腔医療学
	卒業試験	

卒業 → 国家試験 → 歯科医師

卒後教育

臨床研修医（原則1年）

Ⓐ 歯科医師として **医療施設に就職**
（個人開業医、総合病院等）

大学院生

大学院博士課程（4年）進学

修了 博士（歯学）

Ⓑ 歯科医師、博士（歯学）として
医療施設、行政分野に就職

Ⓒ 歯科医師、博士（歯学）として
大学、研究機関に就職
（大学教員等として歯科医療、研究および教育に従事）

大学で高い知識と技術を身につけた後に、医療施設に就職または個人歯科医院を運営することも可能

※博士（歯学）は、一般的に歯学博士と呼ばれる学位です。※大学教員になるには、原則として博士の学位が必要です。

歯学部の特色

特色ある教育 1

患者の目線で行動できる歯科医師を養成
早期体験実習・離島歯科医療実習

患者の目線で行動できる歯科医師養成のために、多くの臨床実習を取り入れています。1年次の早期体験実習では、前期に学内の臨床分野を回り、今後の学習への意欲を高めます。後期には長崎市内を中心とした開業歯科医院や総合病院などにおいて、歯科医療の現場を見ることができます。

また、地域医療にも力を入れており、平成21年度からは5～6年次に五島市での離島歯科医療実習を開始しています。この実習では医学部、薬学部との共修の保健・福祉プログラムもあり、将来の医療チームとしての連携や、他職種との共同活動が念頭に置かれています。離島実習は離島が多い長崎県ならではのもので、地域歯科医療振興のために今後さらなる内容の充実を図っています。

1年次から歯科医療の現場に触れ、歯科医師の心構えが持てる

長崎ならではの離島の抱える問題にかかわり、地域医療に貢献できる

実習で患者と触れ合うことでコミュニケーション能力が向上する

特色ある教育 2

独自のカリキュラムで先進的な教育が受けられる

未来の歯学界を切り拓く独自のカリキュラム

全国の歯学部共通のコア・カリキュラムに加えて、ユニークな科目群を採用しています。大きな特徴は、4～5年次の「統合科目」が挙げられます。グループディスカッションの形式で、問題基盤型学習（ＰＢＬ）により学生自らが問題を発見し、これまで学んできたさまざまな分野の知識を駆使しながら問題解決する力をきたえるものです。医療倫理・プロフェッショナリズム教育学、臨床解剖学などがあります。また超高齢社会の歯科医療に対応する科目（高齢者歯科学、摂食嚥下リハビリテーション学など）の充実も図っています。

3年次のコミュニティー教育・実習では、外部講師を招いて地域社会における歯科医師の役割を学びます。また長崎大学歯学部グローカルインターンシップ・プログラムでは、幅広い知識の習得を目指します。これからの時代の変化に応じた歯学教育を展開しています。

統合科目で積極的に課題と向き合う問題解決能力をきたえる

問題基盤型学習（PBL）により、疾患に関する総合的な判断力が身につく

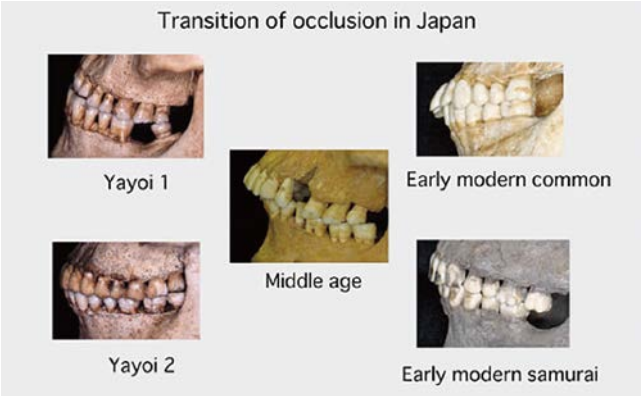
グローカルインターンシップ・プログラムでは、幅広い知識の習得を目指す

歯学部研究室紹介 基礎系

01 顎顔面解剖学

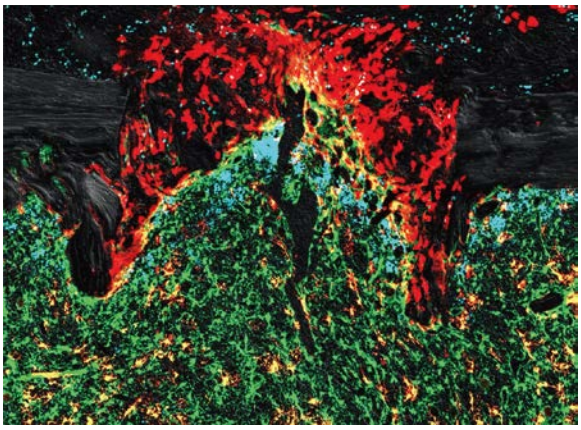
歯を中心とした顎顔面領域の形質人類学的研究を行っています。歯の形態の時間的・空間的変異をもとに、人類地域集団の起源、拡散、混血、置換などの集団史の解明を進めています。また当時の口腔領域の疾患の集団間変異について古病理学的研究を進めています。

さらに人骨から抽出されたミトコンドリアDNAの分析を行い、人類地域集団の系統解析を行っています。



02 硬組織発生再生学

口腔がんや歯周病によって失われた顎骨の再生は歯科領域における永遠の課題です。骨の幹細胞は骨の再生、骨の発生、さらにはがんの進展にも関与していると考えられていますが、どこに存在しているかさえ正確に分かっていません。当研究室では遺伝子改変マウスを使って骨の幹細胞を見つけ出し、その細胞運命とともに全容の解明を目指しています。医学、工学、化学、情報科学など、様々な分野と密に連携を取りながら生命現象の本質を明らかにする研究、そして何より「おもしろい！」と思える研究に取り組んでいます。



03 加齢口腔生理学

当研究室は“加齢”という時間軸に沿った生理機能の変容を冠した、世界的にもユニークな生理学教室です。生理学はホメオスターシス（恒常性）が大前提ですが、生体の機能は1日の中でダイナミックに変動します。生理機能の変動リズムを制御するのが視床下部に存在する「体内時計」です。我々は体内時計の神経回路メカニズムを解明することで、加齢に伴う生体機能の減弱を補い、超高齢化社会におけるQOL（生活の質）を確保するべく研究を進めています。

04 口腔病理学

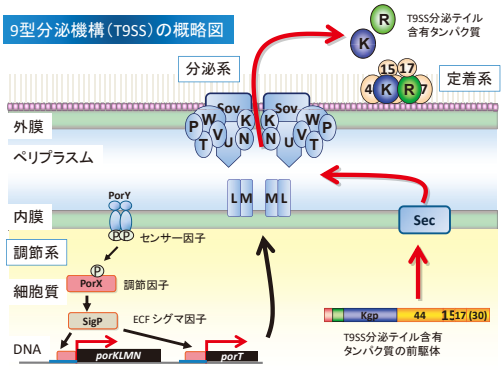
病理では病院での生検や切除された病変の標本を実際に診断していることから、外科材料を用いた研究ができることが大きな強みであり、また、病理学にはこうした貴重な標本を用いて歯科医学の発展に貢献する責任もあります。従って当分野では、口腔病理専門医として病理組織診断を行いながら、疾患の発生・成立のメカニズムを明らかにする研究を進めています。

特に、口腔扁平上皮癌、歯原性腫瘍、唾液腺腫瘍などを対象として、形態学的及び分子生物学的研究を行っています。

05 口腔病原微生物学

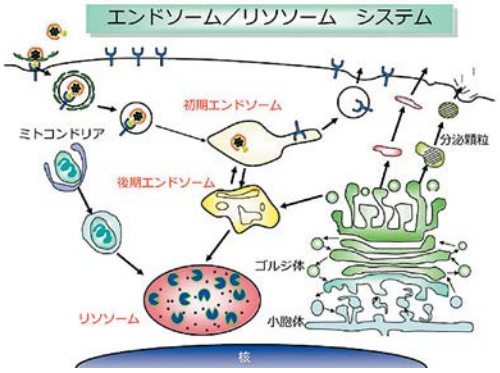
歯周病は嫌気性細菌による感染症です。とくに重要な歯周病原細菌として*Porphyromonas gingivalis*が挙げられます。私たちは本菌の病原性を明らかにするため、おもに分子遺伝学的方法を用いて研究しています。本菌から分泌される強力なタンパク質分解酵素の研究から、新たに細菌の分泌機構（9型分泌機構）を発見し、現在、その全容を解明する研究を行っています。

さらに他の歯周病細菌の病原因子の解明も行っています。



06 歯科薬理学

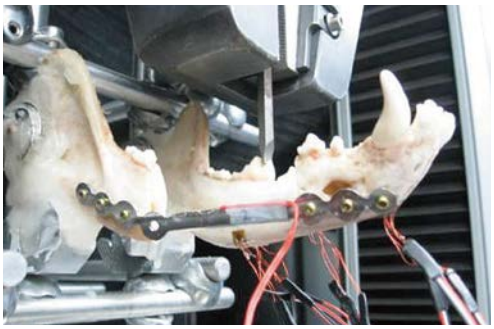
細胞内に存在するリソソームの機能と病態に関して研究を行っています。リソソームには様々な加水分解酵素が含まれており、リソソームの機能異常は、様々な病態を引き起こします。リソソーム機能を制御する分子、特に歯科領域と関連の深い遺伝子やタンパク質の解析を通じて、新しい創薬のターゲットを探していきたいと考えています。



07 生体材料学

当分野で行っている研究の主なものは次の通りです。

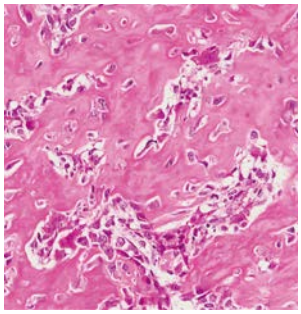
1. 選択的薬剤徐放を可能にする歯科・生体材料の開発
2. 表面化学修飾による歯科用合金の高機能化（金属アレルギー抑制・抗菌性など）
3. 骨形成におけるフェロトーシス抑制機構の解明と生体材料への応用
4. 高靭性生体活性ジルコニアインプラントの創製
5. インプラント材料や歯内療法材料、矯正用材料の各種特性評価



08 分子腫瘍生物学

「がん」をはじめとする悪性腫瘍の克服は、人類の大きな挑戦です。人の命を奪う怖いイメージが強い「がん」ですが、その「がん」を研究することで、生命科学は発展してきました。

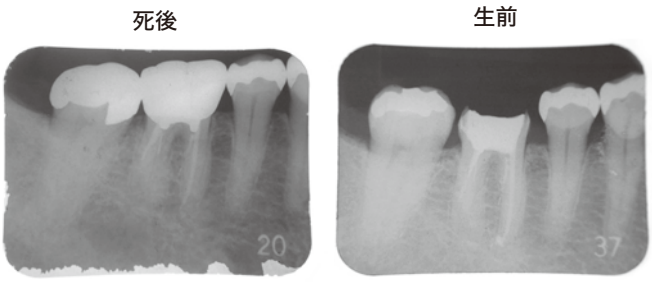
当分野では、骨肉腫および舌がんの発症および悪性化の分子メカニズムを、遺伝子改変マウスを用いて研究しております。またそれらの解析で得られた知見をもとに、副作用の小さな新規抗腫瘍薬剤の開発を目指します。



09 歯科法医学

近年、歯学教育モデル・コア・カリキュラム、歯科医師国家試験出題基準に歯科法医学領域の項目が新たに加わり、歯科法医学が学術及び社会へ果たす役割が注目されています。

当分野では平常時、災害時における歯科所見を用いた身元の確認、死後CT画像の活用、アルコール検知に関する研究を進めています。また、地域の関連機関と連携して社会貢献にも力をいれています。



レントゲン画像を用いた身元の確認

歯学部研究室紹介 基礎系 臨床系

10 フロンティア口腔科学

免疫応答は生体の健康維持に必要不可欠ですが、ときに過敏反応としてアレルギー疾患や重度歯周炎などを引き起こします。我々は免疫細胞における小胞輸送を探ることで、アレルギーや炎症発現のメカニズムを解明し、病態を抑える新規治療法を探索しています。

また、歯周病細菌の全身に及ぼす影響やバイオフィルム拡張メカニズムの解析も行っています。

01 先進口腔医療開発学

医療・科学の技術が革新的に進歩する中で、最先端の医療技術サービスの実現化に社会から大きな期待が寄せられています。本分野では、プラネタリーヘルスへの貢献を念頭に、口腔領域の難治性疾患（シェーグレン症候群などによる唾液腺疾患や、顎骨腫瘍手術後などによる顎骨・歯槽骨欠損、骨系統疾患など）を対象に、再生医学を中心とした先端医療開発（末梢血から誘導した免疫細胞や脂肪組織由来の間葉系幹細胞、iPS細胞などを利用した新たな治療用細胞の開発）の基礎研究及び非臨床試験・臨床試験に専門的に取り組んでいます。

02 口腔保健学

口腔の健康に関わるトピックスをマクロとミクロの視点から考察し、「一生自分の歯で食べられる社会の実現」を目指します。効果的な予防法がすべての国民に普及するには、政策的な仕組み作りも重要です。保健所、学校、地域での集団健診や大規模調査研究を通じて、社会全体の健康を追求します。

1. 口腔疾患と全身との関連性についての五島調査研究
2. 口腔細菌叢と唾液中IgAや全身の免疫機能に関する研究
3. 唾液を用いた歯周病スクリーニング検査法の開発
4. 周術期・要介護高齢者の口腔ケア法の確立

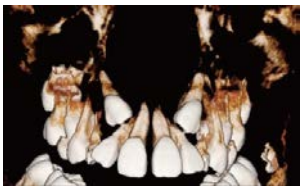
03 歯科矯正学

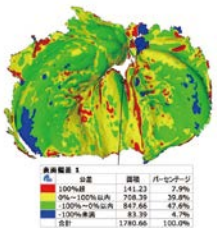
不正咬合の発生機序を、顎顔面頭蓋の形態的あるいは機能的な異常の両面から把え、矯正力を作用させた際の歯列、咬合、顎の成長の変化及び歯の移動のメカニズムを解明することを研究課題としています。

04 発達育成歯科学

当分野では、小児に関連する歯学全てを研究対象としており、以下のような課題の研究を関係分野とも協力しながら行っています。

1. 齲蝕病原性細菌の病原因子に関する研究
2. 齲蝕予防材料に関する研究
3. 小児の口腔機能に関する研究
4. 心身障害・全身疾患・先天性疾患を有する患児の口腔管理に関する研究
5. 顔面頭蓋の成長発育に及ぼす要因についての研究


歯科用CTによる混合歯列期の3D画像


乳児口蓋裂の口腔内スキャン→3Dプリンター出力

05 歯周歯内治療学

超高齢社会に突入した本邦において、歯科の二大疾患である歯周病と齲蝕（それに続く歯髄炎、根尖性歯周炎）の病態をより深く解明し、新規の治療法を開発することは、歯の延命を介して「食べる」、「話す」といった日常生活動作の維持・向上に貢献します。そこで、当分野では、これらの疾患の効率的な治療・予防法の確立を目指し、以下のような研究を展開しています。

1. 歯周病原細菌および歯石の歯周組織に対する為害作用
2. 歯周病の診断法及び器材の開発
3. 根管治療の器材及び薬剤の開発
4. 歯周組織及び歯髄再生療法の開発

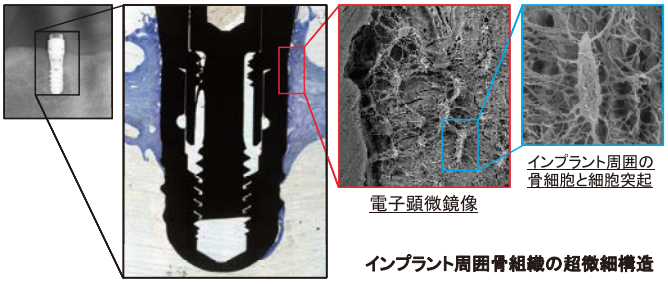
根管治療後の根尖病変部の推移
（CT撮影像）

歯周病患者と口腔衛生状態が良好な人との口腔内の比較

06 口腔インプラント学

インプラント治療を含む歯科補綴治療を成功させるために、補綴に関わる基礎研究からトランスレーショナルリサーチまでを、高い専門性を生かして行っています。

1. インプラントにおける荷重と骨質との関連性
2. 接着性を向上させるための基礎研究
3. 高分子・複合材料・セラミックスの創製と臨床応用
4. 薬剤関連顎骨壊死の病因究明と治療方法の開発



インプラント周囲骨組織の超微細構造

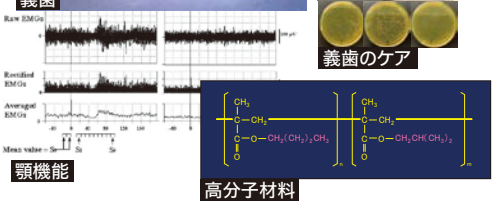
07 歯科補綴学

歯科補綴学領域において、実用化を目指した研究を行っています。

1. リライン材および義歯安定剤の開発と臨床応用
2. 義歯のケア
3. 顎口腔系の被調節性と顎運動系の機能的診断
4. 補綴歯科領域の臨床研究
5. 老年歯科医学
6. AIを応用した食塊形成能の解析

義歯

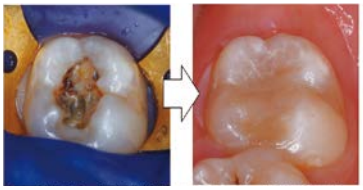
義歯のケア

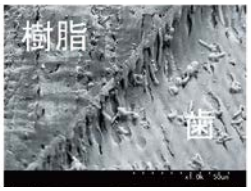


08 保存修復学

近年、若者のう蝕は少なくなっていますが、高齢者のう蝕が増加しています。当部門では、最新の人工材料を用いてう蝕を治し、失われた歯の形態、色調、および機能を回復します。一生涯自分の歯で食事ができるよう、また治療した歯が何年経っても美しく保たれることを目指して、臨床ならびに研究に取り組んでいます。

1. う蝕の制御
2. 象牙質改質剤の開発
3. 歯と接着性樹脂の結合改善
4. 歯の代替となる材料の耐久性評価
5. 歯および修復物表面の保護コーティング法開発


光で硬化する樹脂を用いたう蝕治療



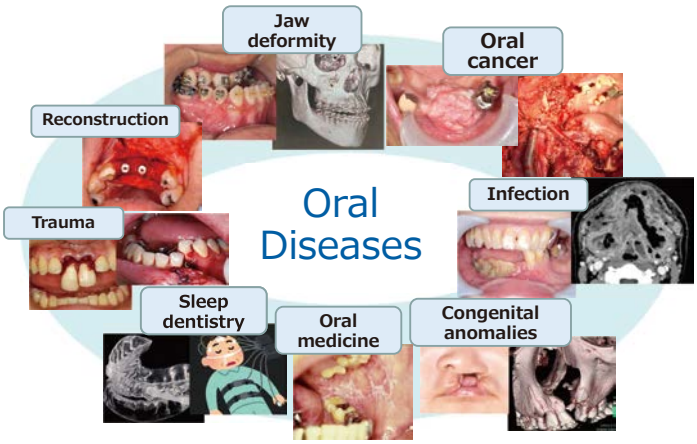
接着界面の電子顕微鏡像

歯学部研究室紹介 臨床系

09 口腔顎顔面外科学

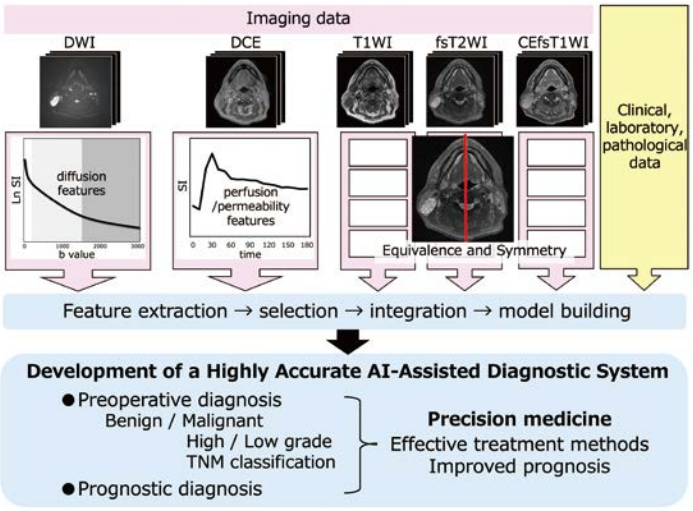
口腔癌や顎変形症をはじめとしたさまざまな口腔疾患のより良い治療法の開発を目指した研究を行っています。具体的には現在下記のテーマについてクリニカルクエスチョンを解決すべく基礎的および臨床的研究を行っています。

1. 口腔癌の治療に関する基礎的・臨床的研究
2. 口腔癌の分子標的治療開発に関する研究
3. 顎顔面の変形症や先天異常に関する基礎的・臨床的研究
4. 薬剤関連顎骨壊死に関する研究
5. 顎口腔の再建に関する基礎的・臨床的研究
6. デジタル技術を用いた治療支援システムに関する研究



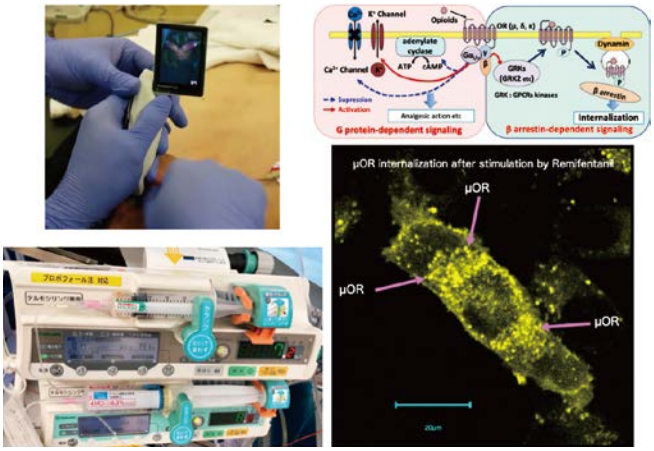
10 口腔診断・情報科学

1. **高精度画像診断法の開発**：頭頸部領域の様々な病変を対象に、MRIやCT、超音波、PET/CTなどの画像モダリティから得られる情報と、最新のAI技術を利用して、新しい高精度画像診断法の開発を行っています。
2. **分子腫瘍学**：細胞死を誘導するストレス（放射線、低酸素、抗がん剤）に対する細胞死経路について研究を行っています。



11 歯科麻酔学

1. 口腔外科手術や歯科治療のための安全な周術期管理
2. 麻酔薬と上気道開通性に関する研究
3. オピオイド受容体の耐性形成メカニズムの解析
4. 顎口腔顔面領域の痛みに関する研究
5. 快適で安全な新しい鎮静法の開発



12 総合歯科臨床教育学

特定の専門に偏らず、全身状態や生活背景までも見据えた「総合診療」を基盤に、卒前・卒後のシームレスな臨床教育を推進しています。次世代の地域医療を担う歯科医師を育てるため、学生が主体となる「診療参加型実習」のカリキュラム構築や、着実な技能修得を支える新たな教育システムの開発を通じ、次世代の歯科臨床教育をリードしていきます。

在学生、卒業生からのメッセージ

在学生

金子 萌芽

歯学科　6年
（昭和薬科大学附属高等学校 出身）

充実した大学生活を

私は現在6年生で大学病院にて臨床実習中です。臨床実習は今まで学んだことを臨床の場で実際にみることで学びがさらに深まります。4年生までは診療科ごとの勉強ですが、臨床の場では科の壁を越えて、さらに歯科的なことだけでなく医科的なことなど、総合的に考えないといけません。色々なことを考慮する必要があり、臨床の難しさを実感します。しかし、今まで学んだことを繋げて考えることができるようになるため、歯科医療の面白さを実感することができると思います。

大学生活の6年間は勉強が大変で体力的にも精神的にも辛いことはあります。しかし、大学生活は勉強だけではありません。部活やアルバイト、旅行などの遊びにも全力を注ぐことができます。実際、長崎大学歯学部ではほとんどの学生が何らかの部活に所属しています。部活では九州の歯学部の大会や全国の歯学部の大会もあり、他大学の学生とも交流することができます。また、多くの学生がアルバイトをしています。普段は歯学部の学生以外と関わりをもつ機会が少ないため、アルバイトで他学部や色々な方々と関わりをもつことは、自分の世界も広がるためお勧めです。

長崎大学歯学部で学業だけでなく、私生活でも充実した6年間を送っていただけると嬉しいです。

在学生

小野田 陸

歯学科　4年
（愛知県桜丘高等学校 出身）

学びが少しずつ形になる日々

長崎大学歯学部では、学年が進むにつれて学びが少しずつ専門的になり、将来の歯科医師につながっているという実感が強くなります。私はこの春、3年生の履修を終えて4年生に進みました。これまで学んできた基礎科目の内容が土台となり、そのさらに専門的な学びが積み重なっていくことで、知識が少しずつ深まり、つながっていくのを実感しています。覚えることは多く、簡単なことばかりではありませんが、学びの積み重ねが将来の力になっていると感じられるときに、大きなやりがいがあります。

また、長崎大学歯学部の魅力は、先生方との距離が近いことです。実習中の解説では、先生方が周りの学生も巻き込みながら話を進めてくださるため、教室全体に質問しやすい空気があります。分からないことを一人で抱え込まずに学べることは、大きな安心につながっています。同級生と学ぶ中でも刺激を受けることが多く、互いに支え合いながら成長できる環境だと感じています。勉強は忙しいですが、授業以外の時間にはアルバイトにも取り組み、充実した毎日を送っています。歯学をしっかり学べる環境と、落ち着いて学び続けられる雰囲気が、長崎大学歯学部の大きな魅力です。

在学生

正野 遥菜

歯学科　2年
（久留米大学附設高等学校 出身）

長崎大学で歯科医師への第一歩を

歯学部に入学してからの1年間は、新しい環境で多くのことを学び、自分の視野を広げる時間になりました。基礎科目では、これから専門的な学びにつながる土台を築き、少しずつ自分の成長を感じています。

長崎大学歯学部は1学年約50人の少人数制で、同じ目標を持つ仲間と支え合いながら学べる環境です。授業や日々の勉強の中でも自然と助け合いが生まれ、互いに刺激を受けながら充実した学生生活を送っています。1年次の授業を通して歯科医療の幅広さや奥深さに触れ、実習では市内の歯科医院を見学する機会があり、現場で働く歯科医師の姿を間近に見られることも、長崎大学ならではの魅力です。こうした経験は、将来の自分を具体的に描く大きなきっかけとなりました。また、部活動やアルバイト、他学部の教養科目を通して多くの人と関わることができ、視野を広げながら人としても成長できます。

歯学部の6年間は決して短くありませんが、知識や技術だけでなく、人としても成長できる時間です。皆さんも長崎大学歯学部で同じ夢を持つ仲間と学び、充実した学生生活を共に送りませんか。皆さんとこの場所でともに学べる日を心から楽しみにしています。

卒業生

山路 正登

厚生労働省医系技官
令和2年（2020年）度卒

幅広い分野で活躍できる歯科医師を目指して

皆さんは医系技官という言葉を聞いたことがありますか？医系技官とは、医師・歯科医師免許を持ち専門的知識を活かして人々の健康を守るための仕組みを築く行政官のことをいいます。私は現在、医系技官として働いていますが、厚生労働省の医系技官に求められる役割の1つとして、保健医療施策の企画・立案があります。施策の企画・立案をするためには、歯科医師としての専門性はもちろん、コミュニケーション能力や人間性といった様々な要素が求められます。また、これらの要素は、臨床で歯科診療を行う際にも求められる要素であると思います。

私は、長崎大学での6年間を通じて、医系技官として、また、歯科医師として求められる要素について多くのことを学ぶことができました。これは、大学時代の先生方の手厚いサポートや友人との出会いがあったからこそだと強く感じています。

長崎大学には幅広い分野で活躍できる歯科医師になれる環境があります。是非、長崎大学で様々な分野で活躍できる歯科医師を目指してみませんか。

歯学部の入試システム

入学志願者は、大学入学共通テストの受験を必要とします。
入試は、一般選抜（前期日程）試験と総合型選抜及び学校推薦型選抜です。これらの詳細は募集要項をご覧ください。

10 Oct. / 11 Nov. / 12 Dec.

大学入学共通テスト
出願受付 10月上旬

一般選抜（前期） 定員40人

総合型選抜 定員5人
出願受付 11月上旬
第1次選考 11月下旬

総合型選抜では、歯学部ゼミナールが開講されます。

学校推薦型選抜 定員5人
出願受付 12月中旬

※学校推薦型選抜合格者は、歯科医師の資格に加え、長崎大学で博士（歯学）の学位も取得することを前提とした、歯学研究コース（基本定員20人）を履修します。

入学料 …… 282,000円

授業料（前・後期に分けて納入）

年額 ……535,800円

※入学料、授業料については改正される（金額未定）可能性があります。

入学料・授業料免除、入学料徴収猶予

経済的理由により入学料の納付が困難な場合、全額または半額が免除される制度があります。
また、経済的理由により、入学手続き期間内に入学料の納付が困難と認められる場合、徴収猶予制度があります。

奨学金

①日本学生支援機構

日本学生支援機構では人物・学業に優れ、経済的理由で修学が困難な学生に対し奨学金の貸与を行っています。

②各種奨学金

日本学生支援機構の他にも地方自治体及び民間企業などで奨学金制度を設けている団体もあり、長崎大学でその募集を行っています。

【日本学生支援機構】（利率は変更されることがあります）

奨学金の種類		貸与月額	返還利率
大学第一種奨学金	自宅通学者	20,000円、30,000円 または 45,000円	無利子
	自宅外通学者	20,000円、30,000円、40,000円 または 51,000円	
大学第二種奨学金		月額 20,000円 〜 120,000円（10,000円刻み）	卒業後の利率 3％上限

諸納付金等

○入学年度納入額

種別	金額（円）	備考
学生教育研究災害傷害保険	4,800	6年間
学研災付帯賠償責任保険（付帯保険）	3,000	6年間（Cコース）
歯学部教育後援会費	100,000	6年間
歯学部学友会費	36,000	6年間
合計	143,800	

参考 上記以外の諸納付金等

4年次生
臨床実習開始前の各種予防接種費（約10,000円）が必要となります。また、主に4年次に行う口腔生命科学各論Ⅱの実習において使用する模型等の実習器具の代金（約320,000円）が必要となります。

5年次生
学生の能力と適性について、全国的に一定水準を確保するための全国共通の標準評価試験である臨床実習開始前の共用試験（CBT,OSCE）の受験料（令和8年度38,000円）が必要となります。

6年次生
臨床実習でその後の臨床研修へと繋がる臨床能力の習得状況を測定するための全国共通の標準評価試験である歯学生共用試験診療参加型臨床実習後PXの受験料（令和7年度30,000円）が必要となります。また歯科医師国家試験受験手数料（令和7年度18,900円）が必要となります。

※一般的な学生で教科書及び参考書代は、各学年で約20,000〜50,000円程度、また6年次国家試験対策（参考書、模試等）で約100,000円程度の出費が見込まれます。
※諸納付金等については、諸般の事情により入学後に改正される可能性があります。

1 Jan. | 2 Feb. | 3 Mar.

▲ 大学入学共通テスト 1月

▲ 出願受付 1月下旬 ▲ 試験 2/25、26 ▲ 合格者発表 3月上旬 ▲ 入学手続 3月中旬

▲ 第2次選考 1月下旬 ▲ 合格者発表 2月上旬 ▲ 入学手続 2月中旬

▲ 試験 1月下旬 ▲ 合格者発表 2月上旬 ▲ 入学手続 2月中旬

学校推薦型選抜入試で求める人物像

将来我が国の最先端歯科口腔医療、歯科口腔医学研究又は歯科口腔医学教育を担うことを目指し、歯学部卒業後、長崎大学大学院医歯薬学総合研究科（歯学系）に進学するための、歯学研究コースを履修することを確約する人。

歯科医師国家試験合格状況

年度	新卒 受験者	新卒 合格者	新卒 合格率	既卒 受験者	既卒 合格者	既卒 合格率	計	全国平均
第115回（令和4年）	45	36	80.0%	23	8	34.8%	64.7%	61.6%
第116回（令和5年）	52	42	80.8%	21	10	47.6%	71.2%	63.5%
第117回（令和6年）	44	41	93.2%	20	12	60.0%	82.8%	66.1%
第118回（令和7年）	47	44	93.6%	12	9	75.0%	89.8%	70.3%
第119回（令和8年）	46	41	89.1%	6	2	33.3%	82.7%	61.9%
過去5年間	234	204	**87.2%**	82	41	**50.0%**	**77.5%**	**64.7%**

歯学部生専用の多目的スペースがあり、5～6年生になると専有の自習机が完備されています。合格に向けて頑張るのみです。

日々成長！
いろんなことに挑戦して
自分の世界を広げよう！

Campus Life

行事予定

4 APRIL
- 前期授業開始
- 入学式（1年生）
- 新入生学部オリエンテーション・ワークショップ（1年生）

5 MAY
- 臨床開始前実習開始（5年生）
- 開学記念日

6 JUNE
- CBT（5年生）
- CPX（6年生）

7 JULY
- 前期試験
- オープンキャンパス
- OSCE（5年生）

8 AUGUST
- 全日本歯科学生総合体育大会（オールデンタル）
- 夏季休業
- 臨床知識理解度試験（6年生）

9 SEPTEMBER
- CSX（6年生）

歯学部祭（BBQ）

新入生ワークショップ

歯学研究コース
研究発表会

Circle Activities

10 OCTOBER
- 後期授業開始
- 臨床実習開始（5年生）（離島実習含む）
- 卒業試験（6年生）

11 NOVEMBER
- 歯学部祭

12 DECEMBER
- 冬季休業

1 JANUARY
- 歯科医師国家試験（6年生）

2 FEBRUARY
- 後期試験（1～4年生）

3 MARCH
- 卒業式

国試出発式

歯学部卒業式

歯学部祭（ブラッシングイベント）

登院認証式

サークル活動

陸上競技部	男子バスケットボール部	女子バスケットボール部	
剣道部	卓球部	ゴルフ部	水泳部
サッカー部	バドミントン部	準硬式野球部	硬式庭球部
男子バレーボール部	女子バレーボール部	柔道部	ボウリング部
茶道部	国際部		

施設紹介 in 坂本キャンパス

❶ 入口

❷ 長坂

❸ 被爆に耐え抜いた大楠

❹ 陶板レリーフ「長崎のあけぼの」

❺ 正面玄関

❻ 福利厚生棟（食堂、自習室など）

❼ 歯学部教育研究棟

❽ 長崎大学病院玄関

長崎について

古くから外国と交流があった長崎。
街を歩けば様々な文化と長い歴史に
出会うことができます。

「グラバー園」などの
魅力的な観光名所はもちろん、
「世界新三大夜景」にも選出された
「長崎市の夜景」は必見です!
その他にも、いろんなイベントが見所いっぱい!
たくさんのことを体験しながら
長崎で学ぼう!!

長崎市の夜景(世界新三大夜景の一つ)

軍艦島(端島)

おくんち(龍踊り)

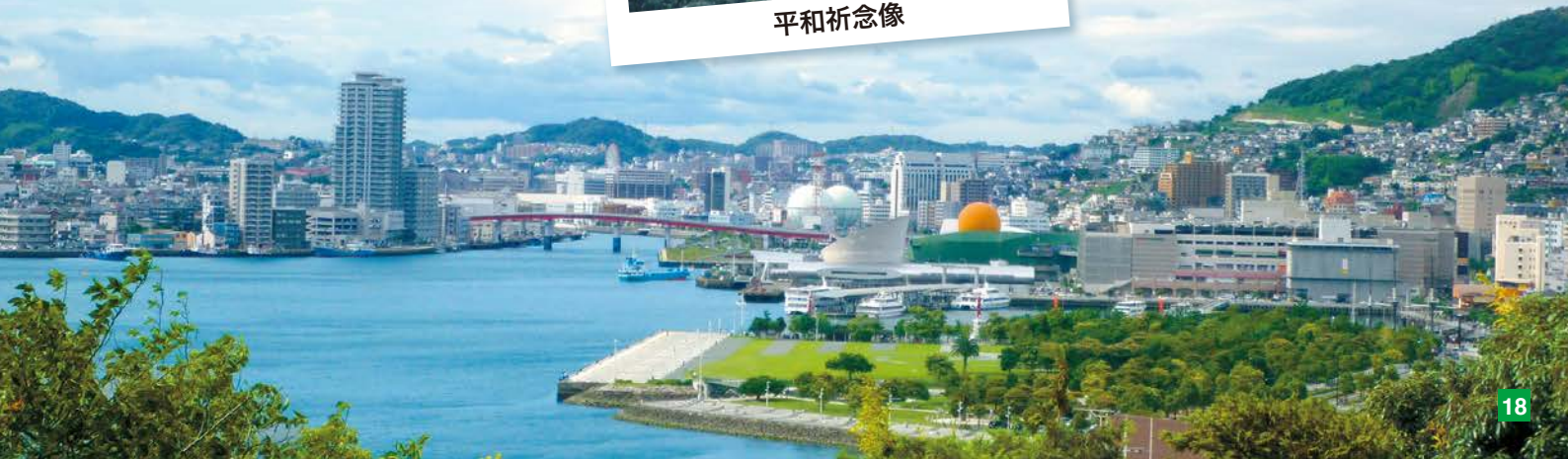
眼鏡橋

ランタンフェスティバル(孔子廟会場)

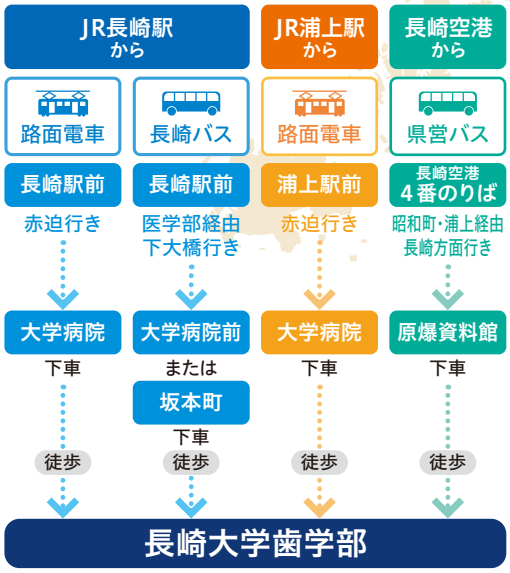
浦上天主堂

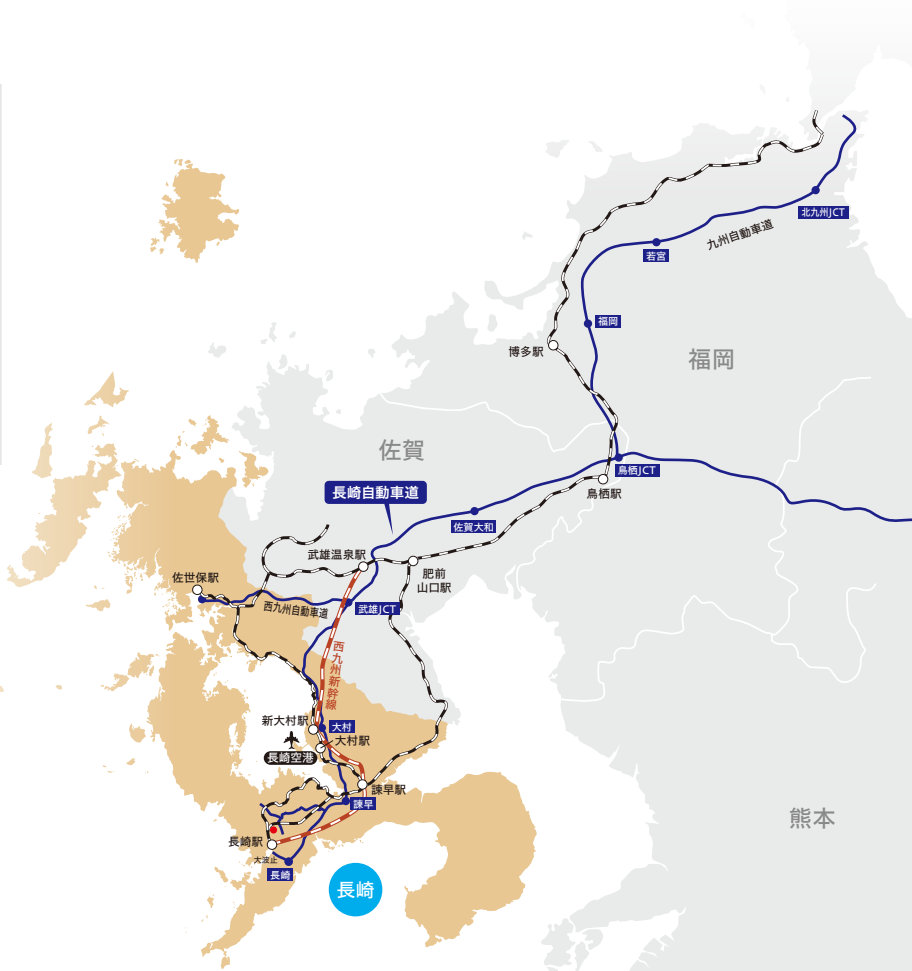
平和祈念像

グラバー園



アクセス
ACCESS





国立大学法人
長崎大学
NAGASAKI UNIVERSITY

for Planetary Health, nagasaki university

■歯学部についてのお問い合わせは
長崎大学歯学部学務係 TEL 095-819-7613
長崎大学生命医科学域・研究所事務部歯学系事務室（学務）
〒852-8588 長崎市坂本1-7-1

■入試についてのお問い合わせは
長崎大学学生支援部入試課
〒852-8521 長崎市文教町1-14　TEL 095-819-2111

■インターネットのホームページでは随時最新の情報をご案内しています。
https://www.de.nagasaki-u.ac.jp